曲亭馬琴著

和漢撮合三編

毎篇八局合本

歌川國安繪画

漢楚賽撰選軍談

三

へ13
3056
3

へ13 特
3056
3

林間に紅葉を焼く壜酒のかん林逸賽和漢割烹辛口甘口
飾雑で終るものゝ板元の株を守る好ゆく通俗物の筋乳
ど推もけれど潰されぬ世界定めのなかで先より生さぬ趣向で筆渋る
にまゝ有の白梅老人粋の昔の餘波や俟ぬ果報も夜飲の
七癖一夜盃二献三編の下帙ゝ亭主ゆあげくせ今茲選を
巡盃ゆも迹引上戸の長物語そのその巴豆でも些圓でもぐゝ
と繰返せ倭文の苧環鉢巻の十露盤頭で胸算用を合せ
鏡や四斗樽の巡包ゆ戯氣の正銘水壽ゞ左利酒の跡催促ゆ
ゝ帳去歳の極月のメ高の後の四冊の卯の新板ようをとり原
端書ゆも本性錯ぬ白夫の生醉孩童を敵ゆゆゝまぞもよん
機嫌で述るれい物の本の作者曲亭馬琴

辛卯孟春
永壽堂梓

稗史の荒唐風を追ひ影を捕へ泡を扮ち屁を握る報ひ[illegible]

世に流るゝ素より論ずべ[illegible]然れども作者の用心亦[illegible]

その学術浅深あり黒白あり[illegible]言ば古人の名を嫁して一部の小説一種曲亢

傳奇院本を作出せる善人を誣く悪人とせば又奸賊を忠義士とせ[illegible]

作者の用心とも[illegible]その善人を誣くるも奸黨と做せるあるも習鑑の希世[illegible]

又奸賊を作更く忠臣義士とせるあり水滸傳の宋公明阿波鳴

門の十郎兵衛白石嘶の常悦是[illegible]

[illegible]猶可[illegible]善人[illegible]を作更く悪人と做せるあり非如その文佳妙とふとも

五日甘せざる所[illegible]抑這漢楚賽の御高ふ二の編輯より義仲をもく項

羽を擬[illegible]演義の趣を做ひ編のそせくふ彼項羽が江中ふ義帝を殺

る段ふ至て毫も合て以謂木曾が信濃の宮を立て項羽が義帝を立けるふ

似[illegible]ふ義仲が初を推義仲仗て宮を帝位ふ即[illegible]

[illegible]上皇その議ふ従ふ且臣知康ふ君羊小食その功を媚[illegible]言市

虎[illegible]義仲大く憤激て遂ふ悖逆の罪を[illegible]漢楚の趣の[illegible]

義仲宮を殺[illegible]作らば[illegible]その忠義を誣て虎狼野心と做せるあり因て江

中の一條の項羽が子興安を誅[illegible]撮合て彼拔逆の意を取て用心

帝[illegible]ふ拉て彼書の隨ふ綴做[illegible]ども童蒙

何[illegible]知らん[illegible]府[illegible]管[illegible]天[illegible]蘭ふ小家の珍説[illegible]

ふ書肆の責ふ塞げども[illegible]張も世ふ障子の[illegible]草希第[illegible]編の序[illegible]地鉄

著を一応心戯謔も思ひよれども[illegible]今

[illegible]筆を走らふ足ふ逢者ふ美[illegible]得ふ幾ば春毎に長物語[illegible]出て下

文政十三年庚寅春正月吉日新版

曲亭馬琴識

漢楚軍三傑
擬楚義帝
信濃宮今屋王
員小佐員外
車秀妻磯鳥
蟬丸都の竹乃園生
笛の主
擬楚大将
英布
源十郎
行家
亢龍乃悔
夕くまの雲雀丸

擬楚大將周蘭
今井四郎兼平
勝鶏の軒端に
霊相やちら
ねとて
擬漢相國蕭何
大江廣元

擬婚席呂須
平鱗子
遺髪と
母ふよぞる
三日の月
擬單父呂文
北條時政

漢楚軍師名録
擬曲逆侯
陳平
秩父庄司
二郎
重忠
人手
貸及
師老いそぐ
智慧嚢
三
擬漢大将
曹参
三善
善信
人くるくろ
碁盤よせ
涼碁
擬楚大将
四

良
お中たちのたづすもいとおりかふとてたとうとう仮うちのせえたせうコリやうとしてちあられて

二
定

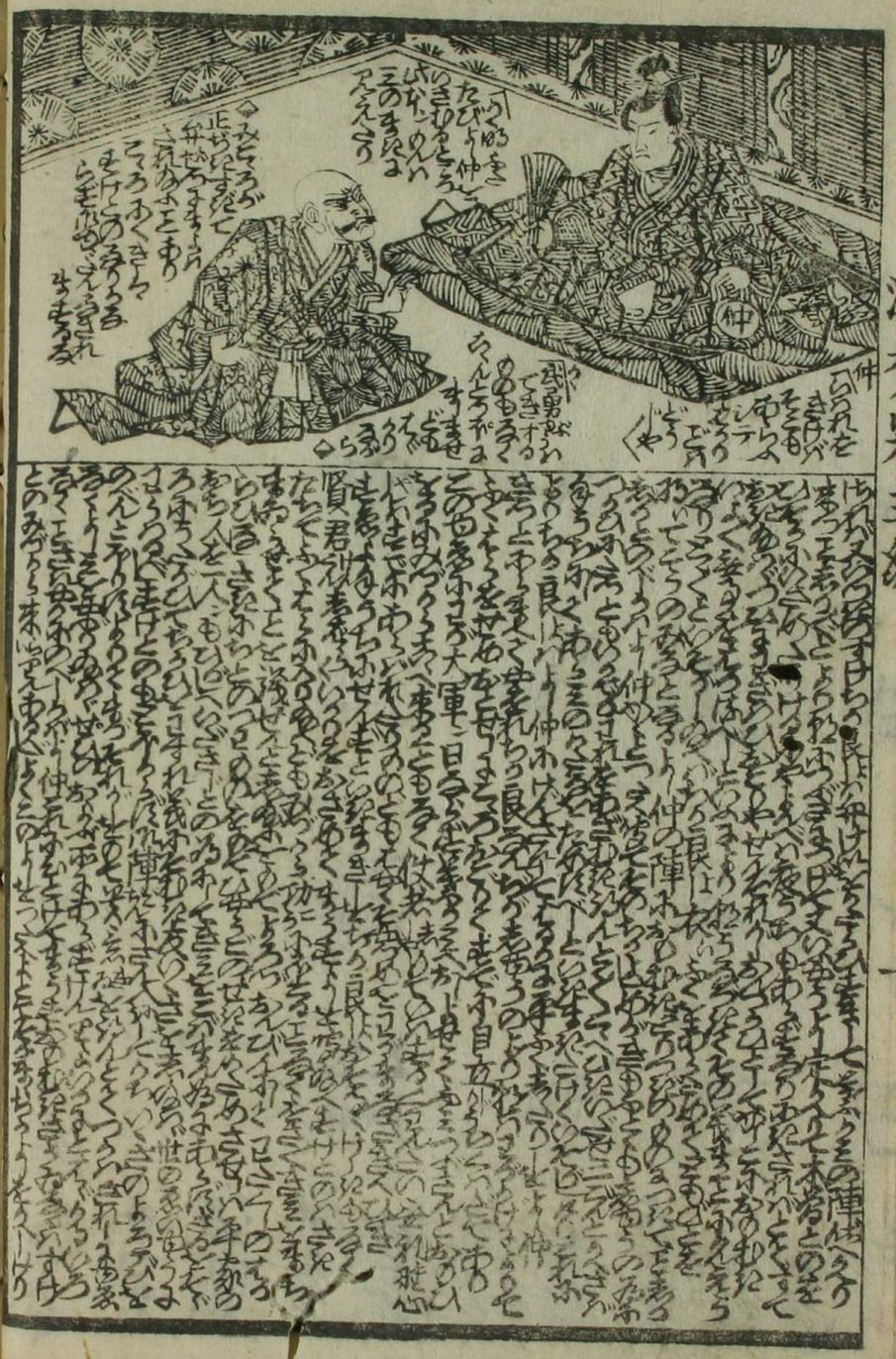
定
良

朝

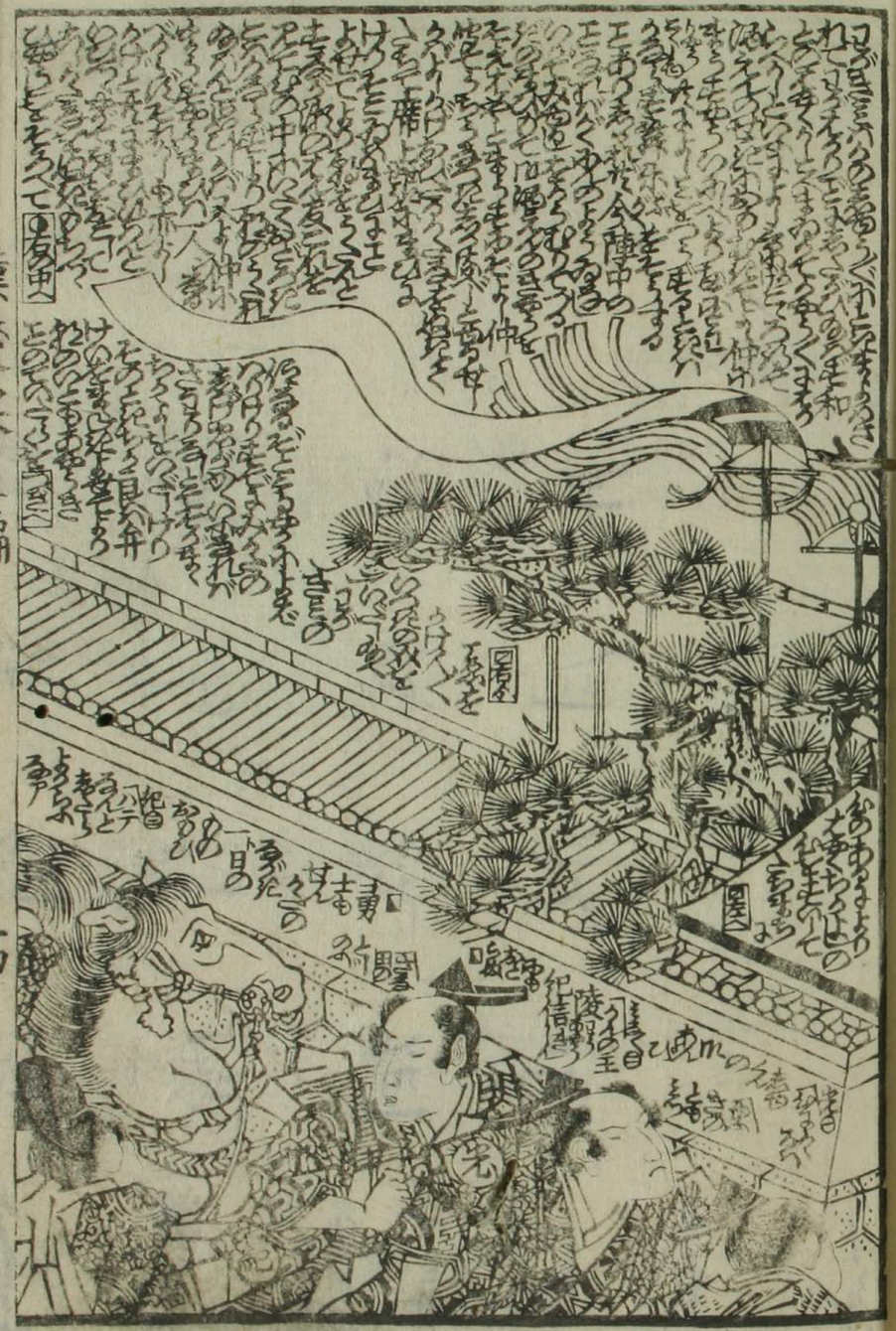
良

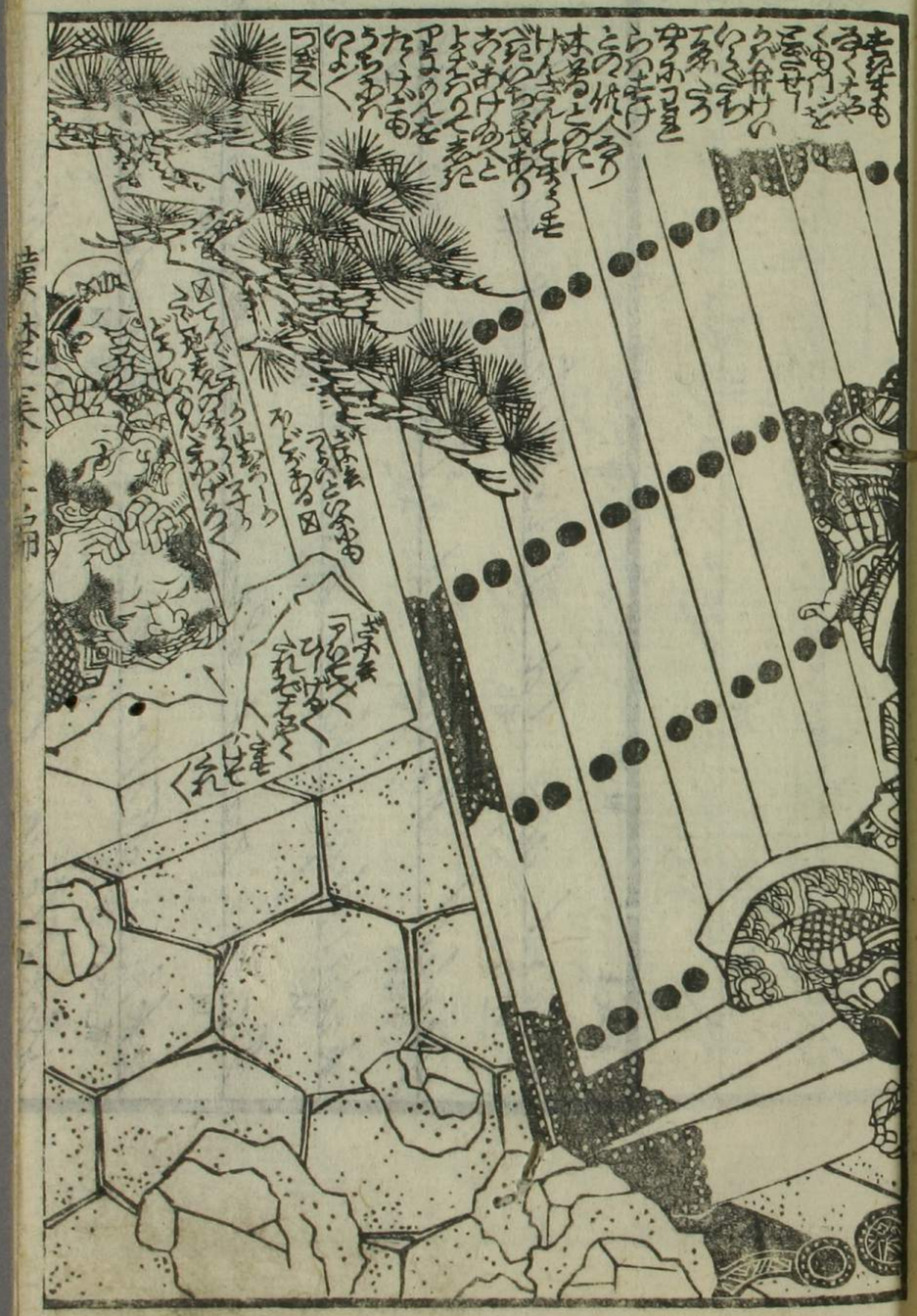
巳

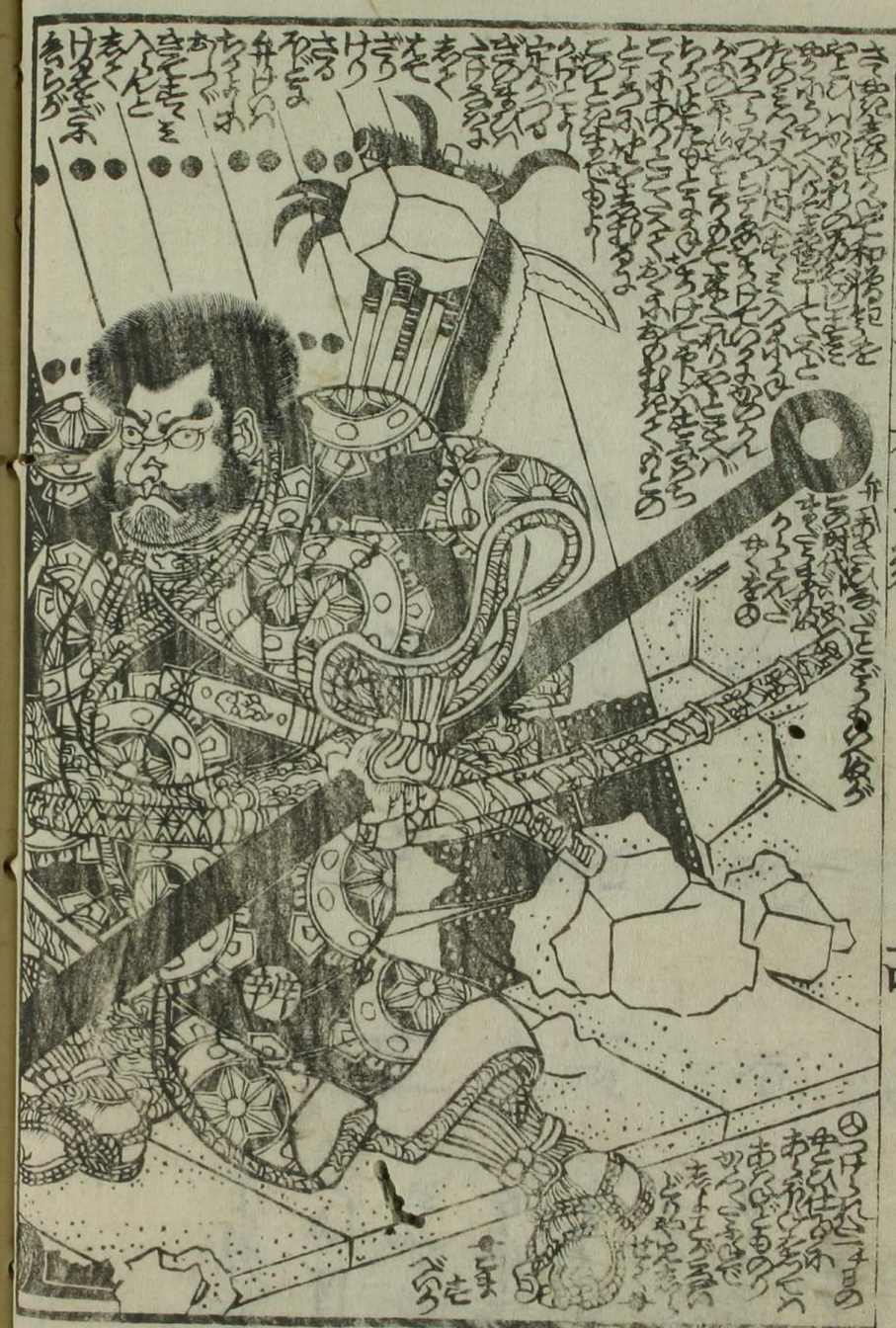
仲


仲

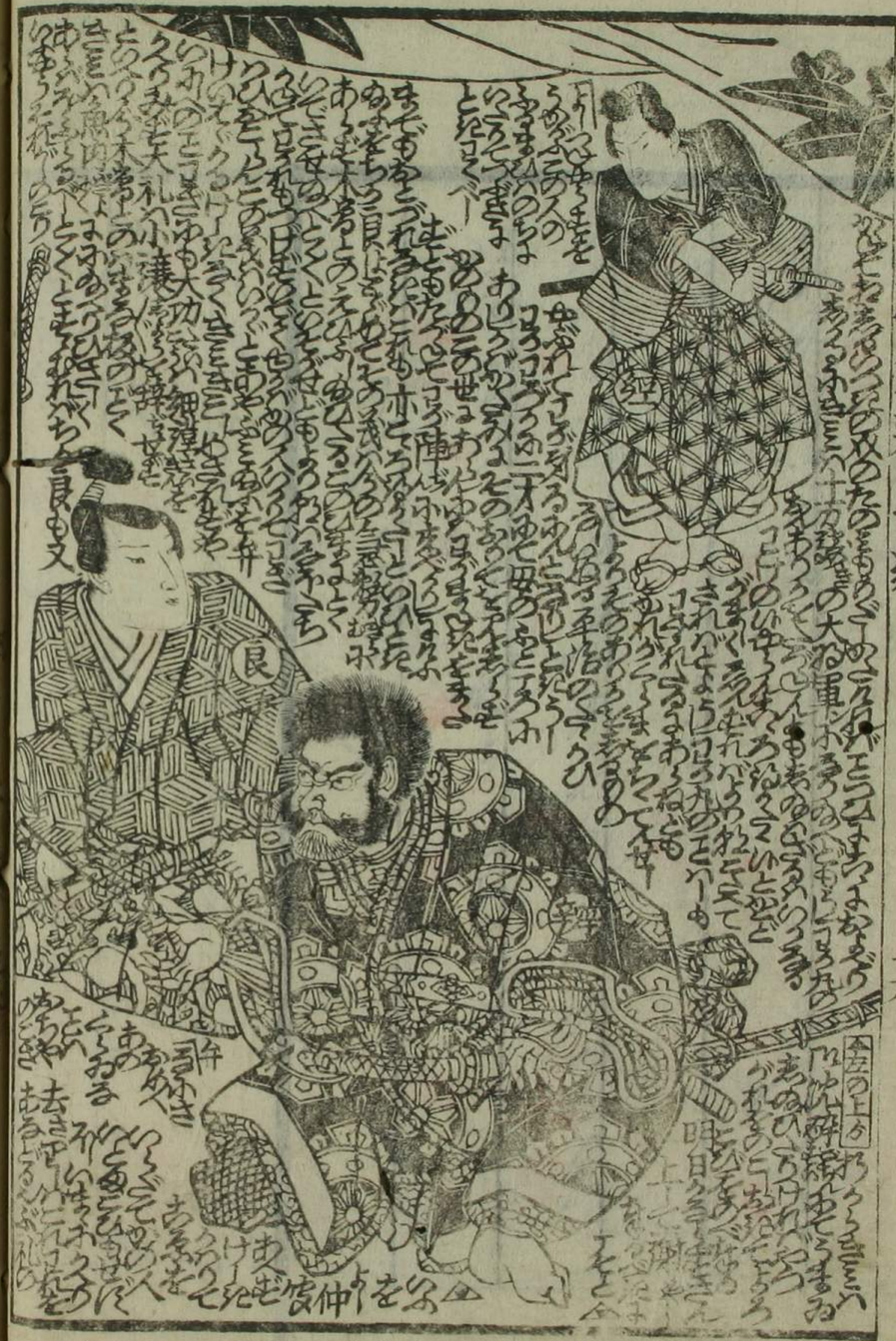
朝
昼
夕
仲
里
行
覚
文
田







仲
太



漢楚軍三
貞
仲

馬琴作

國安画

家傳神女湯　一包代百文

精制衣奇應丸　一包代百文

熊胆黒丸子　一包代五十文

婦人つぶ蚤の妙薬　一包三十二文

制衣茶　一包代五十文

弘所　元鍛冶町坂下南側　滝沢氏

浄書　金川

仲
巴
三

仲
項

朝
艮
巽
重

仲
空
君

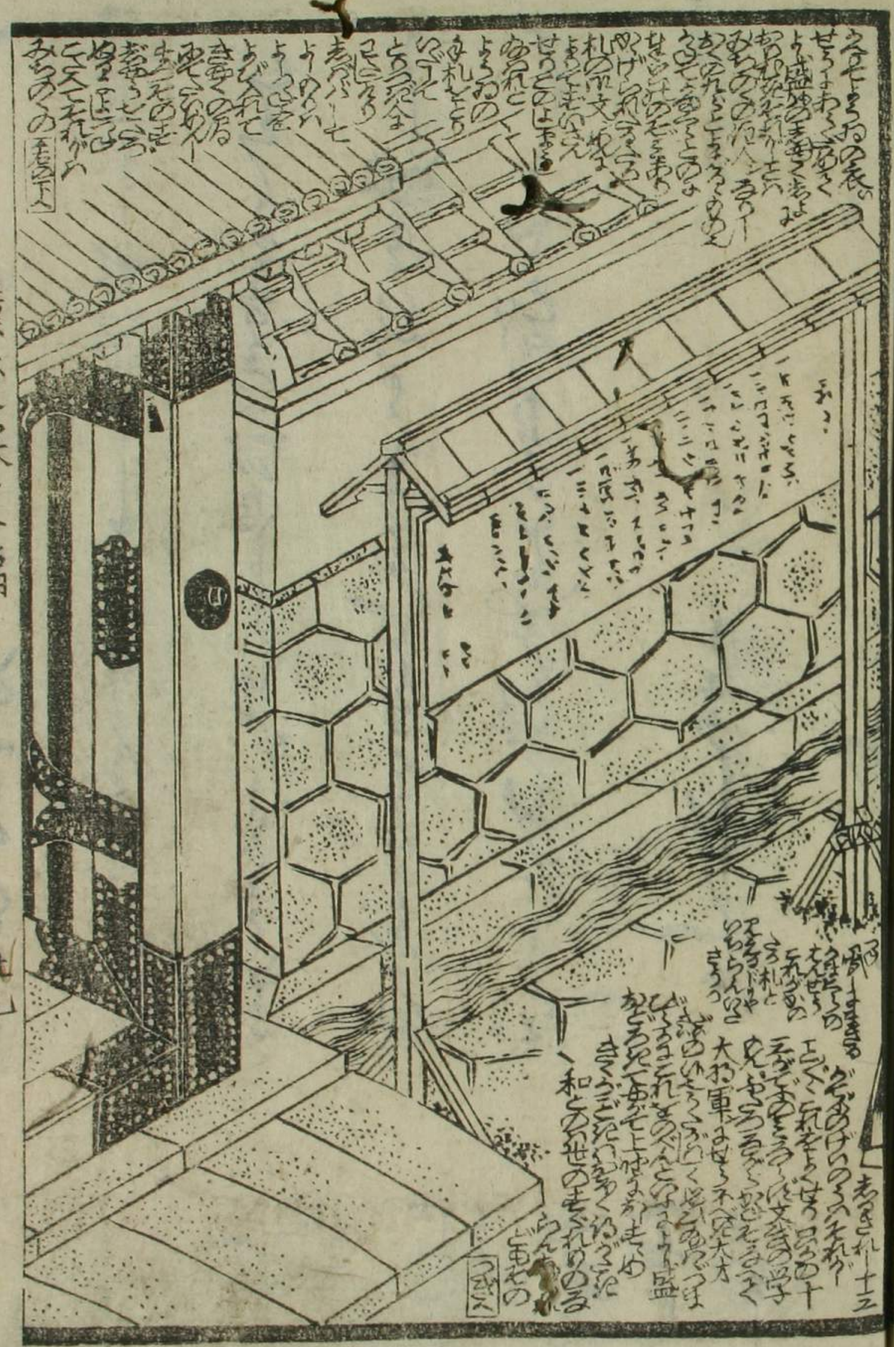
那
る

濃麹賛三雑

蝶 麦の種千石小米花 羅文

頼

弥



漢楚賽擬選軍談第三編

擬漢楚鴻門會鶴水泊傭樊噲
義秀親衡末生時猶幸有辨慶

寅の正月より　馬琴著　國安画　西村屋與八刊行

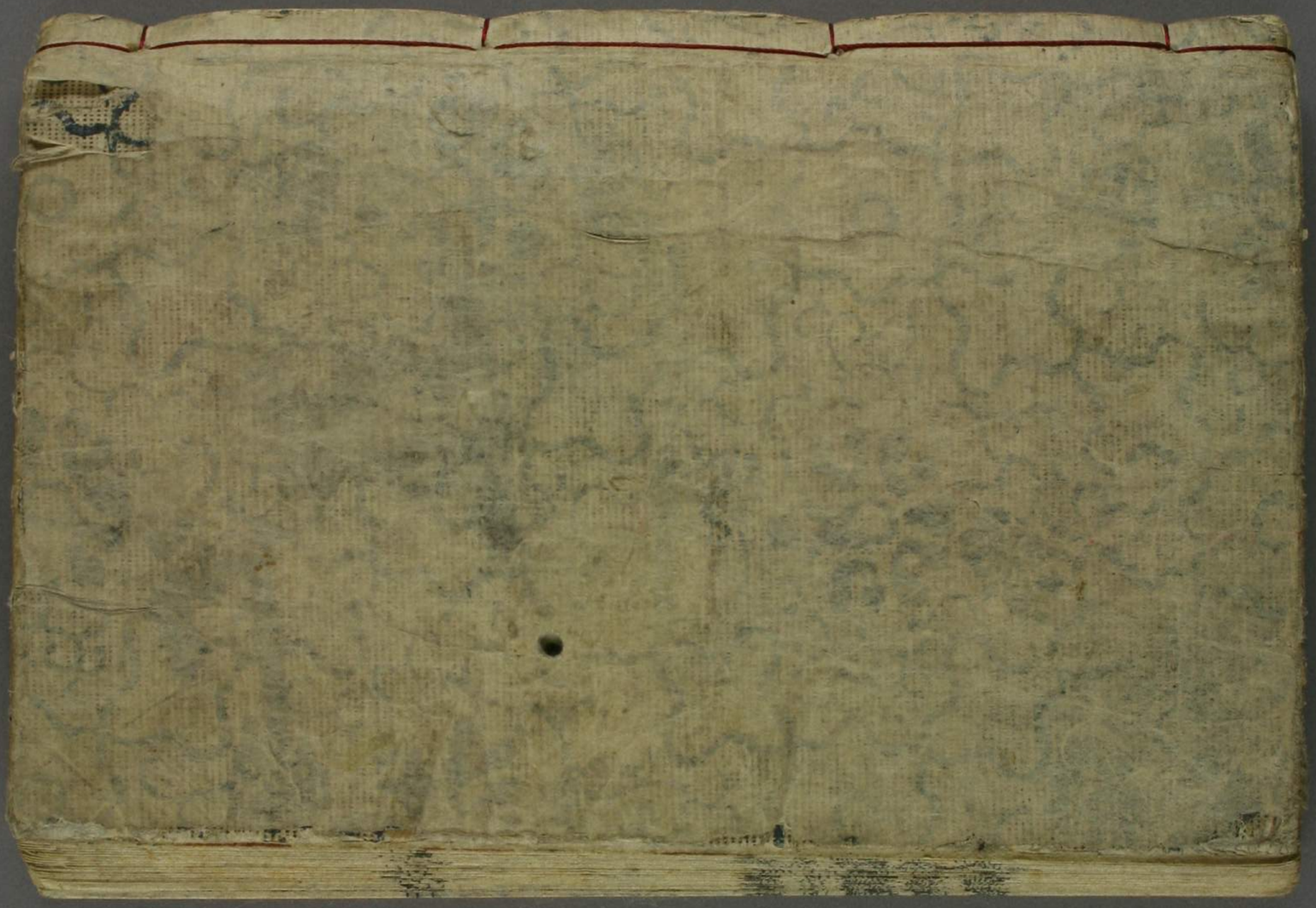
擬伯莊鉾盾舞大酒宴劔三昧
范増奮激異邦昔愛亦有覺明

曲亭馬琴著　文政辛卯孟春刷次印發
本編八冊下帙合本二冊

うん楚演義　第三編の四

話　江中の義帝を擬ふ平頼盛乃淀河船

説　退楚の韓信を擬ふ源義経の足柄越

歌川國安画

江戸浅草御門内馬喰町
永壽堂書林西村屋與八